

## 美術の窓(32)

## 宋代の絵画

大和文華館館長 吉川逸治

今秋は、特別展として宋代の絵画を選びました。宋代の芸術と申されますと、私は言葉に表わしたい畏敬の念に包まれます。宗教画なら、崇敬の対象として、この様な気持ちで接するのも当然ですが、山水画、花鳥画といった種類の作品でも宋画と申されますと、普通なら宗教画の部類には属さない作品でも、所謂「俗なるもの」と取り上げず、「聖なるもの」として、緊張して鑑賞し、心底から痺れる如く、忘我の境地に陥り、清冽な喜びに浸るのを体験します。

例をあげれば、本館所蔵の李迪の「雪中帰牧図」など、降りしきる雪の薄暮時に歩調も軽やかに、雉をもった牧童を載せて、帰路を急ぐ牛の姿を描いた小品ですが、鑑賞するうちに様々のことが連想されて、牛が靈獣、牧童が神仙の従者、雉も貴重な賜物と心に映じてくるのを覚えます。小画面ながら精妙極まりない墨色淡彩の穏やかな調子の空間、古木が大地の斜面に幹を据え、枯れ枝を張る様子など、すべて普通の物質世界以上のものを提示して、深い悟りへと精神を導きます。

北夷西戎の圧迫をも顧みず、皇帝も臣民も儒学の規律に拠り、中華の文化を矜持し、老荘思想の構想を愛好し、理の思念に沈潜します。他方、唐末の廃仏棄釈後にも拘らず、六朝以来数世紀に渉った中国仏教の影響も、また精神の錬成に資するところ根深く、かくて、この「雪中帰牧図」のなかにもこれら様々の教学の修業の反映が窺見されるのを覚えます。

古典古代の影響を受容して、自らも明快な古典的文化を華々しく展開させる隋唐以前の中国固有の神秘的な世界観が、鮮鋭な精神をもって再生してくるのを感じます。六朝の謝赫の氣韻生動が、ここでは画面全体に画家の精神が作る精妙な墨色の調子によって、陥間を弥漫します。この精神主義に私どもは感動し、忘我の境地に入ります。「氣韻」は、かつては画家達が客観的に、象徴記号や約束の構成によって伝統的に課せられてきた形象だったものが、ここでは画家自身の主観に拠って精神的に表現されるのです。

かくして宇宙像が約束的形式ではなく、画家の主観が把握し、その筆技筆力の墨色を自在に表現に生かすところの画像で、即時に、山水、人物、花鳥の実相として、宇宙像を作り出すのです。画家の心に結晶する宇宙像で、それは同じ宇宙像でも曼荼羅の如くに仏、菩薩、天部といった多数の人体像を幾何学形式に構成して宇宙像を象徴するものではありません。

宋代でも南方地方で、晩唐五代以来の如来像、菩薩像は作られますし、高僧像、羅漢像が描かれます。この場合、宋代仏画の特色は、鋭い写実主義でありますが、まず色彩明暗度の精妙な正確さによって空間や立体描写の的確さと同時に超自然の美麗さを現出します。空間性も、立体性も、唐朝絵画がすでに見事になしとげたところですが、古典古代の絵画の空間とか立体性とは、あくまで物質世界に基本を置いたものだったのです。



雪中帰牧図(右幅) 当館蔵

ところが、宋朝仏画の空間とは、如来の世界の観相であって、そこには精妙に画者観者の精神的韻律が織り込まれ、充実した実相として、これまでの古典的仏教絵画の人間形態主義の画像の悠然たる所と異なり、精神的な迫真性が鋭く観者の心を貫きます。唐末の廃仏棄釈は、宇宙像の画題を仏教絵画から奪って、中国絵画の主流を山水画に移し、花鳥画もこれに準じて宇宙像の一部を担当することになります。

この中国的宇宙像の最も特色ある表現が、山水画であることは論をまたないことです。しかし、この中国的画題も、遡れば遠い古代オリエンの聖山、聖木、神女、靈水の象徴的形像に遡り得ます。古代シュメル美術に記された三角形を集積した聖山に聖木の立つ形像は、その後のオリエンの画像に受け継がれるのみならず、シルクロードを伝って、鋭三角形の連山列峰の形像が出現し、しばしば水流を随伴し、時に怪龍も出没するような図像が須弥山など多数の仏教画像に混じって西域まで達し、中国人の創力力を刺激します。

六朝時代にいたって、神仙思想を背景に雲煙の取り巻く高峰に滝を懸け、水流を巡らし、靈木の林を据え、懸崖、洞穴を設けて神仙や龍などの住むところを暗示した。

山嶽、靈峰を中央に据えた山水が「古拙様式」で堂々と形成されると同時に、さらに西域から流入する古典古代の自然主義的な、写実的な山野樹林の形式が影響を与え、隋唐時代の風景画に多様な自然景が描かれ、そのなかから後代の樹石平遠山水とか、巨嶽高遠山水、高峯深遠山水などの山水形式の基本が晩唐、五代にかけて準備されます。

古今に絶する北宋山水画は、関同、李成、范寛らの名手によって、それぞれ特色をもって実現され、十一世紀に一世を風靡した大画家郭熙の夥しい大作によって大成されます。古典古代の潮流に従った隋唐美術は理想的な古典的人間主義を基本とした莊麗明快な人間主義の芸術であったのに対し、宋代の芸術は画家の靈的精神が天の創造主の真と理に通せんことを祈念する宇宙像の芸術です。

古典古代に対する反動はシルクロードの彼方を眺めれば、決して宋朝一國の使命ではなく、すでにイスラムの宇宙像的建築とその装飾、東ローマの聖像破棄運動、西ローマのケルト・ゲルマン抽象芸術の跳梁を見るならば、古典古代の没落、新しい強烈な超絶者の宇宙的規模の意図を認めざるを得ないでしょう。

季刊 美のたより No.88

平成元年 8月24日

発行 大和文華館